

## 長岡京市障がい者基本条例（仮称）づくりのための 「第2回市民ワークショップ」開催報告

### 1. 開催概要

【日 時】平成29年6月25日（日）

13:30～16:00

【場 所】長岡京市役所 大会議室

【参加者】42名

（うち、障がいのある人 15人）



### 2. 内容

- (1) 『障害者差別解消法』、『長岡京市障がい者基本条例（仮称）』についての説明
- (2) ワークショップ（※8グループで意見交換し、テーマ毎にメンバー入替え）
- (3) 意見発表

### 3. ワークショップで出た意見

★テーマ①：あなたの「困った！」を伝え合おう！！

#### ○情報・コミュニケーション

- ・近所の人とすれちがっても見えてなくて気付かず、あいさつできない。
- ・乗っている電車がトラブルで止まった時、難聴のため聞こえなくて何が起きているのかわからなくて不安になった。
- ・エレベータは、緊急時は音声のやり取りになるのが不安。
- ・スーパーのレジで、何か聞かれても騒がしいので聞き取れない。

#### ○理解不足

- ・障がいが見て分からないので、理解してもらいにくい。
- ・周囲の理解が得られず、アパートを借りにくい。
- ・補聴器を着けていれば聞こえると誤解を受けた。
- ・リフト付きバスの使い方を知らないバスの運転手がいる。
- ・身体が不自由でバランスが悪く、電車内で痴漢に間違われぬか不安。

#### ○生活環境

- ・ちょっとした段差や斜めの歩道が車いすの人にとっては危険。
- ・自転車のベルや車のクラクションが聞こえないので怖い。
- ・障がい児の親は休むことができない。

## ★テーマ②： あなたの「困った！」はどのように解決しましたか？

## ○周囲の配慮

- ・参観日で子どもの発言を聞き取れなかった時、周りの保護者が紙に書いてくれた。
- ・西山天王山駅から電車に乗るときに、駅員さんが河原町の駅に「〇両目に難病の人が乗っていて、〇分に到着します。」と伝えてくれた。

## ○本人の工夫・発信

- ・バスで電光掲示板が見えなくて、アナウンスが聞き取れないので、外の景色を見て降りる判断をしている。
- ・バスの運転手さんが教えてくれる時もあるので、自分の聴覚に障がいがあることを知ってもらうのが大切だと思った。

## ★テーマ③： みんなの「困った！」を解決するために、このまちの中に、「あったらいいな」「こうなったらいいな」「もっと広まればいいな」と思うものは何ですか？

## ○相互理解

- ・交流の機会がもっとあればいい。
- ・ヘルプマークがもっと広まってほしい。
- ・具体的にどのような障がいの種類があるかの紹介。
- ・エレベータの鏡は車いすで降りるときの後方確認用という理解を。

## ○情報・コミュニケーション

- ・耳マークを掲示してほしい。
- ・手話のコミュニケーションが取れる人や、要約筆記もっと広がってほしい。
- ・窓口に iPad などのタブレットを置いてほしい。
- ・障がいを持っていることを知らせる方法。

## ○教育

- ・相互理解のためにも、子供の頃から教育を。

## ○参加の機会

- ・障がいの有無にかかわらず参加できる行事がもっとあれば。
- ・福祉施設や障がいのある方が集える場所が必要。

## ○環境整備

- ・障がい者の視点に立ったバリアフリーの施設。
- ・階段の手すりは片方ではなく、両方つけてほしい。
- ・助けてくれる場所を教えてくれる人、場所があれば嬉しい。
- ・介護者（障がいを持つ子の親等）を支える仕組みが必要。

## 4. ワークショップの感想・気付いたこと・条例に入りたいこと など

○理解の大切さ

- ・障がいについて勉強不足を痛感。もっとたくさんを知りたい。
- ・どんな障がいの人でも無理解に心を痛めておられるということを実感した。
- ・条例ができれば、全ての市民に理解してもらえる方法を。
- ・車いすから見える世界を意識して同じ目線になって話そうと思った。

○交流の大切さ

- ・今回のような機会をまた作っていただきたい。
- ・今日の取組にもっとたくさんの人に興味を持ってもらいたい。
- ・たまにお会いするだけでは気づきが続かない。継続してつながりを持つ事が大事。
- ・小さい頃から障がいのある人と身近に育てば偏見なく受け入れられるのでは。

○お互いの意思表示・コミュニケーション

- ・意思表示を互いにすることが大切（助けてほしいこと、助けを申し出ること）
- ・障がいの有無ではなく、人と人とのつながりが大切。少しの発信と少しの感度。
- ・障がいわからないことでのハードルは、コミュニケーションをとることで解消できることがわかった。
- ・声をかけて大きなお世話だったらどうしようという不安は不要だとわかった。

○暮らしやすいまち

- ・健常者、障がい者の枠組みではなく、お互いに助け合えばいい街になる。
- ・バリアによって諦めていたことができるようになればいい。
- ・障がい者がもっと外に出られるようになればよい。
- ・障がい者の住みやすい町は高齢者にも良い町。

